

平成19年度
年 報

■ 目 次 ■

◆ 目的及び事業	2～3
◆ 平成 19 年度事業概要	
I 文学資料の収集・整理・保存及び閲覧事業	4
II 展覧会事業 (1) 展覧会開催事業	4
(2) 常設展の展示構成	5
III 教育普及事業	6
IV 北海道文学に関する調査研究事業	7
V 文学愛好団体等の活動に対する支援事業	7
VI 啓発広報事業	7～8
VII 刊行物の刊行事業	8
VIII その他の付帯事業	8
◆ 統計・資料	
I 平成 19 年度 展覧会別観覧状況	9
II 平成 19 年度 事業別利用状況	9
III 平成 19 年度 資料収集状況	10
◆ 組織及び職員	
I 組織機構図	11
II 職員	11
◆ その他	
I 文学館の歩み	12～13
II 諸会議・運営日誌	14～15
III 財団法人北海道文学館役員等名簿	16

■ 目的及び事業 ■

●北海道立博物館条例（抄）

（設置）

第1条 北海道における教育、学術及び文化の振興を図るため、北海道立博物館（以下「博物館」という。）を設置する。

（名称及び位置）

第2条 博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
北海道立北方民族博物館	網走市
北海道立文学館	札幌市
北海道立釧路芸術館	釧路市

（事業）

第3条 博物館は、次の事業を行う。

- (1) 資料を収集し、保管し、展示し、及び閲覧に供すること。
- (2) 展覧会、講演会等の催しを開催し、及び他のものが行うこれらの催しに協力すること。
- (3) 資料の利用に関し、必要な説明、助言等を行うこと。
- (4) 博物館（北海道立北方民族博物館（第6条において「北方民族博物館」という。）を除く。）の施設及び設備（以下「施設等」という。）を文学、美術等芸術に関する催しの利用に供すること。
- (5) 資料に関する専門的又は技術的な調査研究を行うこと。
- (6) 資料の保管、展示等に関する技術的な研究を行うこと。
- (7) 解説書、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (8) 他の博物館等と連携し、及び協力すること。
- (9) 地域の教育文化施設が行う北方文化、文学、美術等芸術に関する活動を援助すること。
- (10) その他設置の目的を達成するために必要な事業

（指定管理者による管理）

第4条 博物館の管理は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第3項の規定による指定を受けた法人その他の団体（以下「指定管理者」という。）に行わせるものとする。

（指定管理者が行う業務の範囲）

第5条 指定管理者が行う業務は、次のとおりとする。

- (1) 第3条各号（第5号及び第6号を除く。）に掲げる事業に関すること。
- (2) 第8条第1項、第13条及び第16条第2項の承認に関すること。
- (3) 施設等の維持管理に関すること。
- (4) その他教育委員会が定める業務。

（開館時間）

第6条 博物館の開館時間は、午前9時30分から午後5時まで（北方民族博物館にあつては、午前9時30分から午後4時30分まで）とする。ただし、指定管理者は、特に必要があると認めるときは、教育委員会の承認を得て、臨時に開館時間を変更することができる。

（休館日）

第7条 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、指定管理者は、博物館の管理運営上必要があるときその他特に必要があると認めるときは、教育委員会の承認を得て、休館日に開館し、又は臨時に休館することができる。

(1) 月曜日（当該日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、休日に該当しない当該日の直後の日）

(2) 12月29日から翌年の1月3日まで

（利用料金）

第12条 利用者は、その利用に係る料金（以下「利用料金」という。）を指定管理者に納めなければならない。

2 前項の規定により指定管理者に納められた利用料金は、指定管理者の収入とする。

3 利用料金の額は、別表に定める額の範囲内において、指定管理者が知事の承認を受けて定める。これを変更しようとするときも、同様とする。

別表（第12条関係）

1 博物館に展示する資料を観覧する場合

(2) 北海道立文学館及び北海道立釧路芸術館の常設展示の場合

区分	利用料金の上限額	
	個人	10人以上の団体
1 高等学校の生徒、大学の学生及びこれらに準ずる者	220円	1人に 150円 つき
2 1以外の者(学齢に達しない者、小学校の児童、中学校の生徒及びこれらに準ずる者を除く。)	450円	1人に 370円 つき

2 北海道立文学館の特別展示室又は講堂を利用する場合

区分	利用料金の上限額		
	午前	午後	1日
特別展示室			47,880円
講堂	5,460円	6,820円	12,280円

(4) 北海道立文学館及び北海道立釧路芸術館の特別展示の場合

区分	利用料金の上限額	
	個人	10人以上の団体
1 小学校の児童、中学校の生徒及びこれらに準ずる者	710円	1人に 610円 つき
2 高等学校の生徒、大学の学生及びこれらに準ずる者	1,160円	1人に 860円 つき
3 1及び2以外の者(学齢に達しない者を除く。)	1,890円	1人に 1,470円 つき

■ 平成 19 年度事業概要 ■

I 文学資料の収集・整理・保存及び閲覧事業

購入資料受入総数（図書・雑誌及び特別資料等）	1,069 点
寄贈資料受入総数（同上）	2,751 点
計	3,820 点

整理・保存 収蔵資料のコンピュータ入力並びに収蔵資料の寄贈・寄託目録作成等。

収蔵資料データベースの公開・検索システムの構築。

閲覧 利用者 延べ 3,922 人

II 展覧会事業

(1) 展覧会開催事業

注：「区分」欄の無印は道負担金事業、※印は財団企画事業。

区分	事業名	実施時期 (日数)	観覧者数 (人)	展覧会の概要
	常設展 北海道の文学	通年 (302 日間)	10,582	北海道の文学を時系列に従いつつジャンル別に構成し、解説している。ビジュアルな展示スタイルを主眼に置き、直筆原稿・遺品・初版本・書簡・写真などの貴重な資料を 1,350 点公開している。(◎展示構成を次頁に掲載。)
	特別企画展 太宰治の青春 津島修治であったころ	6/30(土) ～ 8/22(水) (46 日間)	4,462	太宰治が作家になる以前の、誕生から青年期までに焦点を当て、企画構成した。生地青森県にある本道初公開の学生時代のノートのほか、貴重資料を中心に展示することにより、太宰ファンのみならず、太宰を読んでいる方にも興味を抱かせる展示となった。
	特別企画展 目で識る川柳 250 年展 併設：北海道川柳の流れ	9/22(土) ～ 11/7(水) (41 日間)	2,086	北海道川柳連盟、川柳 250 年実行委員会との共催により、江戸から今日に至る川柳の歩みを貴重な歴史資料等により紹介、その伝統と特色を目で識り楽しむことのできる展示となった。「北海道川柳の流れ」のコーナーが併設され、川柳王国といわれる本道川柳界を築きあげた先人の足跡を回顧する好機となった。
	企画展 父・船山馨の DNA 船山滋生の彫刻と挿画	4/28(土) ～ 6/17(日) (44 日間)	1,457	彫刻家・船山滋生の彫刻作品と絵画・挿画作品の展示を主に、小説家の父・船山馨の文学資料と編集者の兄・船山真之の出版資料を加え、親から子へ受け継がれた芸術探求の資質とそれぞれの創造の世界を多角的に紹介、美術と文学をめぐる芸術への理解を深める契機となった。
	企画展 遊んで学んだ、あの時代。 新発見！100 年前の 児童雑誌	11/17(土) ～ 1/14(月) (45 日間)	2,398	函館市中央図書館収蔵の明治～昭和初期までの児童雑誌を中心に、北海道で発行されたものを併せて紹介した。散逸の激しい資料とされる児童雑誌を多く展示することができた。児童雑誌の面白さと道内発行雑誌の存在を知ってもらうことができ、研究者にも情報提供を促す契機となった。
※	企画展 探求者の魂 山田昭夫の書齋から	2/16(土) ～ 3/23(日) (32 日間)	786	元藤女子大学教授で有島武郎研究の第一人者であった山田昭夫の足跡を、当館が所蔵する山田資料をメインにして紹介した。その資料からは、実直な仕事ぶりや人柄を垣間見ることができ、今後の北海道における文学研究・活動に示唆を与えるものとなった。
貸館	石川直樹写真展 森と氷河の VOID	4/11(水) ～ 4/18(水) (7 日間)	117	主催、とかちのアートを考える会。冒険写真家石川直樹がニュージーランドの先住民の聖地を訪ね、その深い原生の密林を主題として撮影した写真作品が紹介された。
貸館	アサヒ・アート・ フェスティバル 田園都市のコンテン ポラリーアート 2007-2008 雪と風の器	1/24(木) ～ 2/3(日) (10 日間)	246	主催、とかちのアートを考える会。現代アートの多彩で多面的な分野を横断しながら、道内を拠点に活動しているアーティスト 6 人の「創造」の世界が紹介された。

〈常設展特設コーナー設置〉 8 月 作家・澤田誠一追悼コーナー (19 年 6 月 5 日没)

(2) 常設展の展示構成

〈北海道の文学、その歴史〉〔神谷忠孝・平原一良〕

◆20世紀への胎動 久保栄「五稜郭血書全5幕」自筆原稿、北方謙三「林蔵の貌」自筆原稿、高倉新一郎『札幌農学校』 ◆助走期の苦闘 有島武郎・木田金次郎宛書簡、武者小路実篤「武郎さんと僕」自筆原稿、雑誌「白樺」 ◆漂泊と彷徨 国木田独歩「欺かざるの記」複製原稿、幸田露伴「二日物語 此一日」複製原稿、石川啄木「雲は天才である」複製原稿 ◆道産子作家の誕生 武林無想庵「アルバム」自筆原稿、森田たま「きもの博士」自筆原稿、中戸川吉二・久米艶子宛書簡 ◆逆流のさなかで 小林多喜二「故里の顔」複製原稿、久保栄「火山灰地」自筆原稿、本庄陸男「逆流」自筆原稿 ◆モダニズムの台頭 伊藤整「文学的青春伝」自筆原稿、中村武羅夫自筆色紙、岡田三郎「かぼちゃ談義」自筆原稿 ◆戦火の中で 辻村もと子「馬追原野」自筆原稿、石塚喜久三「花の海」自筆原稿、坂本直行自筆カット原画 ◆復興と再生 畔柳二美「こぶしの花の咲くころ」自筆原稿、風巻景次郎「札幌地理学」複製原稿、船山馨遺品 ◆成長期の精華 雑誌「北海文学」（原田康子「挽歌」掲載）、和田芳恵「五十年ぶりの帰郷」自筆原稿、李恢成自筆色紙、三浦綾子短冊（三浦光世筆） ◆変転する現代 高橋揆一郎『『伸子』覚え書き』自筆原稿、吉村昭「赤い人」自筆原稿、渡辺淳一「リラ冷えの街」自筆原稿

〈北海道の詩〉〔原子修〕

◆「現代の詩」の創造に挑んだ〈風の詩人〉たち 吉田一穂「魚歌」自筆扁額、小熊秀雄画「裸婦」 ◆「現代の詩」を北の大地に根づかせた〈土の詩人〉たち 更科源蔵「河童十二ヶ月」複製原稿、和田徹三「命」自筆原稿、河邨文一郎「オホーツク」自筆原稿 ◆「現代の詩」の新しい可能性を求めて 原子修自筆色紙

〈北海道の短歌〉〔山名康郎〕

◆北海道歌壇の動き 山下秀之助、酒井廣治、小田観螢、中城ふみ子ほか ◆来道歌人 斎藤茂吉、与謝野寛、与謝野晶子、斎藤史、宮柊二ほか ◆口語短歌 鳴海要吉、石川啄木ほか ◆アイヌの歌人 バチラー八重子、遠星北斗、森竹竹市ほか

〈北海道の俳句〉〔木村敏男〕

◆北方俳句の夜明け 松窓乙二、河東碧梧桐、牛島勝六、高浜虚子、長谷川零餘子、臼田亜浪、石田雨園子、青木郭公ほか ◆俳句近代化への潮流 荻原井泉水、泉天郎、長谷部虎杖子、唐笠何蝶、細谷源二、土岐鍊太郎、伊藤凍魚、水野波陣洞ほか ◆花ひらく北の俳句 斎藤玄、寺田京子、比良暮雪ほか ◆俳句の現代 比良暮雪、佐々木丁冬、鮫島交魚子、園田夢蒼花、山岸巨狼ほか

〈アイヌの口承文芸〉〔青柳文吉〕

金田一京助、知里真志保、久保寺逸彦、金成マツ、知里幸恵、萱野茂

〈北海道の川柳〉〔斎藤大雄〕

◆明治～昭和前期 鈴木青柳、北村白眼子、亀井花童子、神尾三休、三輪破魔杖、井上剣花坊、鶴彬、西嶋〇丸、田中五呂八ほか ◆昭和後期～平成7年 西村欣童、高木夢二郎、森田一二、甲野狂水、古田八白子 ◆北海道の川柳社 道央、道南、道東、道北の各結社の活動と結社誌等を紹介。

〈北海道の児童文学〉〔柴村紀代〕

◆明治～昭和20年代 伊東音次郎、支部沈黙、坪松一郎ほか ◆昭和30年代 石森延男、神沢利子、安藤美紀夫、渡辺ひろし、玉川雄介ほか ◆昭和40年代以降 加藤多一、後藤竜二、長野京子ほか

〈千島・樺太の文学〉〔木原直彦〕

夏堀正元、吉村昭、李恢成、寒川光太郎ほか

III 教育普及事業

注：「事業区分」の無印は道負担金事業、※印は財団企画事業。

事業区分	事業名	実施時期	観覧(参加)者 実績数(人)	備考	
	文芸対談	「芸術を求めるころ」(講師：船山滋生氏、國松明日香氏)	4/28(土)	63	
	トークセッション	「太宰治の青春時代」(講師：竹森茂裕氏、相馬明文氏)	6/30(土)	92	財団法人北海道教職員厚生会と共催
	文芸講演会	「川柳の視野—250年間に川柳が獲得したもの」(講師：尾藤一泉氏)	9/22(土)	109	
	文芸セミナー	「近代日本の児童雑誌—その歴史と子どもの生活」(講師：上笹一郎氏)	11/24(土)	42	
※	文芸セミナー	「夢を紡いだ文学資料」(講師：平原一良氏)	2/23(土)	33	
※	連続朗読会	「太宰治作品を読む」(朗読：館野直光氏、鎌田紳爾氏、村上里和氏)	7/13(金)、7/27(金)、 8/4(土)	127	財団法人北海道教職員厚生会と共催
※	ウィークエンド・カレッジ	「文学講座」ほか6分野、前期・後期合わせて延べ7講座	前期4講座延べ35回 後期3講座延べ26回	403	
※	ロビーコンサート	札幌交響楽団員による弦楽四重奏(ヴァイオリン・大平まゆみ氏ほか)	11/4(日)	46	
	ファミリー文学館	「文字とあそぶ『ほっ』展」、ワークショップ、短歌コンテスト	9/1(土)～9/13(木) (11日間)	2,146	
※	わくわくこどもランド	手作り教室、絵本の読み聞かせ、楽器演奏、紙芝居など15事業	年度間 15回	1,034	
	映画鑑賞会	「真白き富士の嶺」(原作：太宰治、1963年、日活)	5/27(日)、6/10(日)	164	
	映画鑑賞会	「グッドバイ」(原作：太宰治、1949年、東宝)	8/5(日)	112	
	映画鑑賞会	「維新の篝火」(原作：池波正太郎、1961年、東映)	11/25(日)	99	
	映画鑑賞会	「絶唱」(原作：大江賢次、1966年、日活)	3/2(日)	94	
	文学道場	「文学をめざすキミたちのために」(講師：佐野良二氏、柄刀一氏)	8/1(水)、8/2(木)、 8/3(金)	46	
	「文字・活字文化振興事業」 文芸セミナー	「北海道川柳の流れ」(講師：斎藤大雄氏)	10/30(火)	87	
※	市町村連携事業 「文学館出前講座」	「作家は問う—文学・自然・環境」(講師：加藤幸子氏ほか)	11/3(土) ニセコ町有島記念館	143	財団法人北海道教職員厚生会と共催
		「宮澤賢治と妹トシを語る」(講師：斉藤征義氏、松岡義和氏)	11/27(火) 大空町女満別図書館	27	財団法人北海道教職員厚生会と共催
		「風土と文学及び演劇について」(講師：森一生氏)	3/8(土)、3/9(日) 登別明日中等教育学校	80	財団法人北海道教職員厚生会と共催
	川柳展追加事業	「中七川柳」(選者：斎藤大雄氏、浪越靖政氏、平原一良氏)	9/22(土)～10/28(日) 審査日10/31(水)	530	
	川柳展追加事業	「全国川柳大会」(講演：十五世川柳・脇屋川柳氏)	10/7(日) Hライフオート札幌	128	
	川柳展追加事業	パネルディスカッション「これからの川柳」(コーディネーター：岡崎守氏)	10/7(日)	86	
※	文化施設連携事業	「カルチャーナイト2007」	7/20(金)	261	
※	小学生向け事業	「文学館たんけんクイズ」	通年(302日間)	491	
	文学資料の利用	閲覧室での研究、調査、読書等	通年(302日間)	3,922	
貸館	文学愛好団体の活動	文学愛好団体が講堂利用	利用日数—56日	1,520	
教育普及事業参加者 計				11,885	

Ⅳ 北海道文学に関する調査研究事業

- ① 特別企画展「太宰治の青春」関連資料調査
- ② 特別企画展「目で識る川柳 250 年展」関連資料調査
- ③ 企画展「船山滋生の彫刻と挿画」関連資料調査
- ④ 企画展「新発見！100 年前の児童雑誌」関連資料調査
- ⑤ 企画展「探求者の魂―山田昭夫の書齋から」関連資料調査
- ⑥ 特別企画展・企画展の図録作成に要する調査
- ⑦ 副読本「ふるさとを読む 北の人間 北の文学」の編集に関わる資料調査
- ⑧ 加藤多一関連資料調査
- ⑨ 吉増剛造関連資料調査
- ⑩ 岩井成昭関連資料調査
- ⑪ 加藤幸子関連資料調査
- ⑫ 八木義徳関連資料調査

Ⅴ 文学愛好団体等の活動に対する支援事業

次の団体の事業に対して、後援名義並びに主共催名義の使用を承認して支援した。

- ① 中川町教育委員会
「斎藤茂吉記念第 14 回中川町短歌フェスティバル」
(平成 19 年 6 月 1 日～7 月 20 日 中川町教育委員会)
- ② サハリン文学紀行実行委員会
「第 2 回サハリン文学紀行」
(平成 19 年 8 月 5 日～8 月 8 日 サハリン)
- ③ 北海道川柳連盟 (主管：札幌川柳社)
「川柳発祥 250 年平成 19 年北海道知事賞・札幌市長杯授賞北海道川柳大会」
(平成 19 年 7 月 8 日 ホテルノースシティー)
- ④ 新潮社、紀伊國屋書店
「池澤夏樹～トークと自作朗読の夕べ～」
(平成 19 年 5 月 11 日 北海道立文学館地階ロビー)
- ⑤ 若狭弘樹
「ギターによるスペイン散文詩の世界」
(平成 19 年 10 月 10 日 北海道立文学館地階ロビー)
- ⑥ (特定非営利活動法人) 絵本・児童文学研究センター
文化セミナー「野生動物の反乱」
(平成 19 年 11 月 18 日 小樽市民センター)
- ⑦ 「バイリンガル朗読とヴァイオリンの夕べ」実行委員会
「バイリンガル朗読とヴァイオリンの夕べ」
(平成 19 年 12 月 11 日 時計台ホール)

Ⅵ 啓発広報事業

- ① 施設案内、各展覧会ポスター・ちらし及び講演会・セミナーちらし等を制作・発行。

- ② 「北海道文学館報」臨時号（4月17日）、第69号（6月15日）、第70号（9月20日）、第71号（11月13日）、第72号（2月14日）の編集発行。

Ⅶ 刊行物の刊行事業

- ① 特別企画展「太宰治の青春」図録の刊行。
- ② 企画展「船山滋生の彫刻と挿画」図録の刊行。
- ③ 企画展「新発見！100年前の児童雑誌」図録の刊行。
- ④ 企画展「探求者の魂―山田昭夫の書齋から」図録の刊行。
- ⑤ 平成18年度年報の刊行。
- ⑥ 副読本「ふるさとを読む 北の人間 北の文学」の刊行。
- ⑦ 北海道文学館叢書「詩集 登高」（長光太）の刊行。

Ⅷ その他の付帯事業

- ① 博物館学芸員実習生の受け入れ
博物館実務実習として平成19年5月から20年3月まで、次の10大学の25名を2週間毎に1名ずつ受け入れた（4名は1週間毎）。
東北学院大学1名、聖心女子大学2名、北海道大学2名、札幌学院大学3名、北海道東海大学3名、北海道教育大学札幌校2名、札幌大学2名、弘前大学1名、北翔大学8名、聖徳大学1名。
- ② 古書バザールの実施
平成19年4月～同20年3月、文学館ロビーで通年実施（古書バザール実行委員会）。

■ 統計・資料 ■

I 平成 19 年度 展覧会別観覧状況

単位：名

区 分	常設展	特別企画展		企 画 展			貸 館		計	
	北海道の文学	太宰治展	川柳 250 年展	船山滋生展	100 年前の児童雑誌展	山田昭夫展	石川直樹展	雪と風の器		
開催日数	302	46	41	44	45	32	7	10		
観覧者総数	10,582	4,462	2,086	1,457	2,398	786	117	246	22,134	
有 人 料	一 般	1,061	2,376	472	238	344	130	117	246	4,984
	高大生	138	209	36	11	46	2			442
	小中生	0	74	2	0	0	0			76
	幼 児	0	0	0	0	0	0			0
	小 計	1,199	2,659	510	249	390	132	117	246	5,502
	一 般	999	573	160	152	161	77			2,122
	高大生	177	88	22	10	98	8			403
	小中生	0	4	0	0	0	0			4
小 計	1,176	665	182	162	259	85			2,529	
免除・招待	8,207	1,138	1,394	1,046	1,749	569			14,103	
合 計	10,582	4,462	2,086	1,457	2,398	786	117	246	22,134	

II 平成 19 年度 事業別利用状況

単位：名

区分		月別												合計	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
特別会計事業	展覧会事業	常設展	298	564	705	1,284	1,395	1,202	1,584	1,101	586	545	733	585	10,582
		船山滋生展	107	741	609										1,457
		太宰治展			153	2,066	2,243								4,462
		川柳 250 年展						400	1,268	418					2,086
		児童雑誌展								725	993	680			2,398
		貸館による展覧会	117										246		363
	教育普及事業	文芸講演会・セミナー	63		92			109	87	42					393
		ファミリー文学館 (ワークショップ、短歌コンテスト含む)						2,146							2,146
		映画鑑賞会		86	78		112			99				94	469
		文学道場					46								46
		その他(中七川柳、全国川柳大会、パネル ディスカッション)									中七 大会 530 128 パネル 86				744
		愛好団体の文学活動	64	39	326	318	64	121	216	91	78	51	111	41	1,520
		資料閲覧・調査・研究	135	147	173	194	258	273	537	436	413	493	438	425	3,922
小 計	784	1,577	2,136	3,862	4,118	4,251	4,436	2,912	2,070	1,769	1,528	1,145	30,588		
一般会計事業	観望課	山田昭夫展										310	476	786	
		文芸講演会・セミナー										33		33	
		連続朗読会				88	39								127
		ウィークエンド・カレッジ		32	43	51	51	60		27	30	30	70	9	403
		わくわくこどもランド	33	168	83	125	142	38	41	101	187		71	45	1,034
		ロビーコンサート								46					46
		市町村連携事業「文学館出前講座」								170				80	250
		カルチャーナイト 2007				261									261
		文学館たんけんクイズ	17	10	28	10	19	36	107	99	68	27	34	36	491
		小 計	50	210	154	535	251	134	148	443	285	57	518	646	3,431
合 計	834	1,787	2,290	4,397	4,369	4,385	4,584	3,355	2,355	1,826	2,046	1,791	34,019		

Ⅲ 平成 19 年度 資料収集状況

収集状況

単位：点

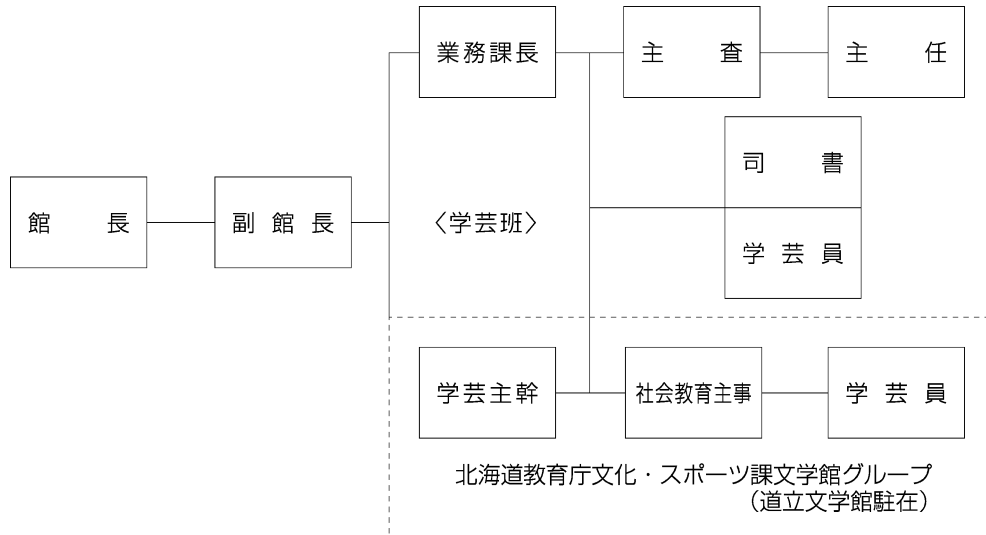
区 分	購 入	受 贈	合 計
図 書 資 料	579	692	1,271
雑 誌 資 料	462	1,871	2,333
視 聴 覚 ・ 電 磁 資 料	1	1	2
特 別 資 料	27	187	214

〈主な収集特別資料一覧〉

・ 太宰治弘前高校時代ノート（複製・CD-ROM）	1 点	寄贈
・ 田中五呂八短冊「何處へ出る道か一筋霧の底」、斎藤大雄句・中野北溟書 「人だかり用もないのに寄ってみる」など川柳関係受贈資料	149 点	寄贈
・ レコード『日本童謡全集』他	31 点	寄贈
・ 渡邊茂自筆ノート「朔北児雑記 1930～1937」他	3 点	購入
・ 森田たま自筆原稿「ものを買ふ」（400 字詰 6 枚完）	1 点	購入
・ 船山馨自筆原稿「壁の中の魂 太宰治の死」（400 字詰 7 枚完）	1 点	購入
・ 竹内てるよ自筆原稿「「叱る」ということ」（400 字詰 3 枚完）	1 点	購入
・ 斎藤玄自筆原稿「壺中呓語」（400 字詰 7 枚）	1 点	購入
・ 高橋揆一郎自筆原稿「木偶おがみ」（400 字詰 11 枚）	1 点	購入
・ 武林無想庵自筆原稿「譯了して」（400 字詰 2 枚完）他	2 点	購入
・ 子母澤寛自筆原稿「海舟と武揚」（400 字詰 4 枚完）他	2 点	購入
・ 寒川光太郎自筆原稿「私の処女作と自信作」（400 字詰 3 枚完）	1 点	購入
・ 八木義徳自筆原稿「「働き者」の血」（400 字詰 7 枚完）他	2 点	購入
・ 伊藤整自筆原稿「映画といふ芸術」（400 字詰 14 枚完）	1 点	購入
・ 知里真志保自筆原稿「マタギの山言葉とアイヌ語」（400 字詰 5 枚完）	1 点	購入
・ 吉増剛造自筆原稿「啄木ローマ字日記の古畳」（17 枚）他	5 点	購入
・ 坂本直行自筆書簡 佐々保雄宛（1923 年）他	2 点	購入

■ 組織及び職員 ■

I 組織機構図



II 職員

(平成 20 年 3 月 31 日現在)

職名	氏名	職名	氏名
館長 (財団副理事長)	清原 登志夫	業務課学芸班 学芸員	喜多 香織
副館長 (財団専務理事)	平原 一良	北海道教育庁文化・スポーツ課 文学館グループ (道立文学館駐在)	
業務課長 (財団常務理事)	川崎 信雄		
業務課主査	永野 キエ	学芸主幹	寺嶋 弘道
業務課主任	丹伊田 範子	社会教育主事	鈴木 浩
業務課学芸班司書	今野 沙紀	学芸員	阿部 かおり

■ その他 ■

I 文学館の歩み

年次	事 項	年次	事 項
昭和42	北海道文学館設立総会、館報1号発行、有島武郎文学展		展、更科源蔵初代理事長死去、『北海道文学大事典』発行、地域文化功労者賞受賞
43	文学に見る北方風物展	61	日本の文学館風景展、和田謹吾理事長就任、歌誌「原始林」40周年記念展、「石川啄木と野口雨情」文学風物展、石森延男と札幌の児童文学展、詩誌「核」30周年記念展
44	北海道旅の文学展	62	『北海道文学百景』「北海道文学絵はがき」発行、北海道文学館歩み展、北海道文学館20周年記念祝賀会および記念展、俳句誌「氷原帯」創刊40周年記念展
45	伊藤整・亀井勝一郎文学展	63	北海道歌人会創立35周年記念展、北海道新聞文学賞展、『北海道文学読本』発行、没後30年久保栄文学展、近代日本の文豪——森鷗外展、財団法人北海道文学館設立
46	北海道詩歌展	平成元	胆振文学展・目で見える風土と文学、俳句誌「葦牙」創刊700号記念展、北海道女流作家第一号森田たま展、北海道川柳展、作家生活25年記念三浦綾子展（札幌、旭川）
47	目で見える札幌文学散歩	2	児童文学「新十津川物語」展（札幌、新十津川）、移動展・石川啄木と野口雨情展、文化情報誌「ニュースきょうどう・カムイミンタラ」展、歌誌「新壑」創刊60周年記念展、北のロマンを奏でる——渡辺淳一文学展、市町村文芸誌展——道東・道北編
48	藤村における旅資料展、久保栄文学展、札幌の文学・百年展	3	市町村文芸誌展——道央・道南編、移動展・石森延男と室蘭の児童文学展、文学展・北海道花の歳時記、来道60年記念斎藤茂吉展、文芸誌「赤煉瓦」とその周辺展
49	文学にみる札幌風物展、北海道女流文学展、小田観螢・人と作品展	4	設立25周年記念・有島武郎と木田金次郎展、北電文化誌「フロンティア」著名作家原稿展、文学展・北海道花の歳時記（室蘭）、北の文学風物誌展（冬の巻）、らいらっく文学賞展
50	札幌の作家展（戦前の巻）、戦後30年・北海道文学展、札幌の作家展（戦後の巻）、川柳に見る戦後の札幌展	5	俳句誌「アカシヤ」500号記念展、札幌文学散歩展、没後25年・道立文学館着工記念伊藤整文学展、北海道詩人協会40周年記念展
51	碑にみる北の文学展、林不忘・長谷川四郎兄弟展、石狩川流域文学展、歌人・山下秀之助展	6	文学・北の歳時記展、文学展・札幌線沿線
52	札幌の文学サークル展、文学展・北の海、札幌・戦後演劇展		
53	文学展・ふるさとの窓、北海道児童文学展、さっぽろの俳句展		
54	札幌市資料館に館看板掲示、現代北海道短歌展、風土のなかの文学碑展、『北海道文学地図』発行		
55	現代北海道俳句展、北海道岬文学展、児童文学と絵日記展——石森延男・その周辺——		
56	雑誌「北方文芸」展、石森延男児童文学展、館所蔵文芸雑誌閲覧開始、北海道岬・文学展、高橋留治氏から3000余冊の詩書等寄贈、北海道文学全集展		
57	島木健作文学展、船山馨文学展、北海道・湖文学展、鮫島交魚子・加藤愛夫文学展		
58	寺田京子・宮田益子・森みつ三人展、文学展・大地と人間、にんげん坂本直行展——その絵と文学——		
59	北海道児童文学全集展、北海道演劇資料展		
60	北海道文学展示室が常設展に移行、北海道俳句展、北原白秋展、文学にみる北方風物		

年次	事項	年次	事項
	の旅、北の山と文学展、和田謹吾理事長死去		野の物語
7	澤田誠一理事長就任		企画展・アイヌ語地名を歩く ― 山田秀三の地名研究から ―
	北海道立文学館開館記念特別展・北の夜明け、所蔵品展・私の愛した抒情詩人たち		企画展・仙花紙からの出発～雑誌に見る「戦後」の姿
8	特別企画展・北海道の俳句、特別企画展・久保栄と北海道、所蔵品展・船山馨の文学世界		企画展・北の風土の批評精神 発生と展開～風巻景次郎から小笠原克へ～
9	特別企画展・森田たまと素木しづ、特別企画展・青春と文学、所蔵品展・書簡に探る作家の素顔	17	企画展・現代少年少女詩・童謡詩展 特別企画展・神沢利子の世界～北を想う・北を描く～
10	特別企画展・北海道の短歌、特別企画展・有島武郎とヨーロッパ、企画展・吉田一穂とその時代		特別企画展・原田康子の北海道～小説「挽歌」から50年～
11	特別企画展・夏目漱石と芥川龍之介、特別企画展・〈本〉はどこに向かうのか、所蔵品展・本庄陸男と『石狩川』		企画展・サハリン追跡～残留朝鮮人の軌跡ファミリー文学館・春を待つ子どもたち～いわさきちひろ複製画展～
12	特別企画展・挿絵と装幀の小宇宙 特別企画展・「北緯五十度」の詩人たち 企画展・花咲く北の川柳展	18	特別企画展・石川啄木～貧苦と挫折を超えて～ 特別企画展・池澤夏樹のトポス～旅する作家と世界の出会い～
13	特別企画展・夢の世界のおくりもの～アンデルセン童話・絵本原画展～ 特別企画展・100年目の小熊秀雄～20世紀詩のアヴァンギャルド～ 企画展・映画ポスターに見る北海道の文学		企画展・人生を奏でる二組のデュオ～有島武郎と木田金次郎・里見淳と中戸川吉二～ 企画展・写・文交響～写真家・綿引幸造の世界から～ 企画展・〈デルス・ウザーラ〉絵物語展
14	神谷忠孝理事長就任 特別企画展・寺山修司展～テラヤマ・ワールド ― きらめく闇の宇宙～ 特別企画展・大自然に抱擁されて～知里幸恵『アイヌ神謡集』の世界へ～ 企画展・中沢茂「ひとりの賑やかさ」～根室と霧と芸術家たち～		企画展・書房の余滴～中山周三旧蔵資料から～
15	特別企画展・生誕100年記念 林芙美子展 特別企画展・函館―青森海峡浪漫～〈北の20世紀〉を紡いだ作家たち～ 企画展・詩人百田宗治の戦後～北海道に残したもの～	19	特別企画展・太宰治の青春～津島修治であったころ～ 特別企画展・目で識る川柳250年展 併設：北海道川柳の流れ 企画展・父・船山馨のDNA～船山滋生の彫刻と挿画～ 企画展・遊んで学んだ、あの時代。新発見！100年前の児童雑誌 企画展・探求者の魂～山田昭夫の書斎から～
16	特別企画展・写真家掛川源一郎の20世紀 特別企画展・更科源蔵生誕100年 北の原		

II 諸会議・運営日誌

- 平成 19 年
- 4 月 11 日 (水) 「石川直樹写真展 森と氷河の VOID」オープン (～4 月 18 日)
- 14 日 (土) 副読本「北海道の文学」編集会議
- 20 日 (金) 川柳 250 年展北海道実行委員会
- 22 日 (日) 「わくわくこどもランド」(手作り教室「こいのぼりをつくろう」)
- 28 日 (土) 企画展「父・船山馨の DNA 船山滋生の彫刻と挿画」オープン (～6 月 17 日)
- 同展オープニングセレモニー
- 5 月 5 日 (土) 文芸対談「芸術を求めるところ」(彫刻家・船山滋生、彫刻家・國松明日香)
- 6 日 (日) 「わくわくこどもランド」(おはなしとピアノコンサート)
- 11 日 (金) ウィークエンド・カレッジ (ロシア文学講読、講師・工藤精一郎)
- 12 日 (土) 「池澤夏樹 トークと自作朗読の夕べ」
- 17 日 (木) ウィークエンド・カレッジ (ロシア語事始め、講師・吉岡正敏)
- 18 日 (金) 財団監事監査
- 19 日 (土) 財団運営検討委員会
- 20 日 (日) 副読本「北海道の文学」編集会議
- 25 日 (金) ウィークエンド・カレッジ (朗読で楽しむ北海道の文学、講師・館野直光)
- 26 日 (土) ウィークエンド・カレッジ (佐々木譲の小説論、講師・佐々木譲)
- 27 日 (日) 財団理事会、評議員会
- 31 日 (木) ウィークエンド・カレッジ (ロシア語事始め、講師・工藤正敏)
- 6 月 1 日 (金) 映画鑑賞会「真白き富士の嶺」(原作：太宰治)
- 2 日 (土) 毛利館長退任
- 3 日 (日) 清原館長就任
- 5 日 (火) 「わくわくこどもランド」(大型絵本の読み聞かせ)
- 9 日 (土) ウィークエンド・カレッジ (ロシア文学講読、講師・工藤精一郎)
- 10 日 (日) 財団法人北海道文学館名誉理事長 澤田誠一氏逝去
- 13 日 (水) ウィークエンド・カレッジ (ロシア語事始め、講師・吉岡正敏)
- 14 日 (木) ウィークエンド・カレッジ (朗読で楽しむ北海道の文学、講師・館野直光)
- 16 日 (土) 映画鑑賞会「真白き富士の嶺」(再上映)
- 17 日 (日) 平成 19 年度全国博物館長会議 (一橋記念講堂、館長出席)
- 23 日 (土) 全国文学館協議会総会・幹事会 (日本近代文学館、副館長出席)
- 30 日 (土) ウィークエンド・カレッジ (朗読で楽しむ北海道の文学、講師・館野直光)
- 同展オープニングセレモニー
- 7 月 1 日 (日) ウィークエンド・カレッジ (ロシア文学講読、講師・工藤精一郎)
- 7 日 (土) ウィークエンド・カレッジ (ロシア語事始め、講師・吉岡正敏)
- 13 日 (金) ウィークエンド・カレッジ (朗読で楽しむ北海道の文学、講師・館野直光)
- 14 日 (土) 連続朗読会「太宰治作品を読む」(元 NHK アナウンサー・館野直光)
- 15 日 (日) 「わくわくこどもランド」(大型絵本読み聞かせ)
- 20 日 (金) ウィークエンド・カレッジ (佐々木譲の小説論、講師・佐々木譲)
- 「カルチャーナイト 2007」へ参加
- ・文学館夜間開館 (午後 10 時まで。常設展無料)
 - ・朗読会「世界の言語で太宰を読む」
 - ・古書バザール
- 21 日 (土) ウィークエンド・カレッジ (朗読で楽しむ北海道の文学、講師・館野直光)
- 27 日 (金) 連続朗読会「太宰治作品を読む」(文芸誌「北奥気圏」編集長・鎌田紳爾)
- 28 日 (土) ウィークエンド・カレッジ (ロシア語事始め、講師・工藤正敏)
- 29 日 (日) 副読本「北海道の文学」編集会議
- 8 月 1 日 (水) 「わくわくこどもランド」(手作り教室「うちわ」)
- 4 日 (土) 「夏休み文学道場」(～3 日まで)
- (講師：作家・佐野良二、作家・柄刀 一)
- 連続朗読会「太宰治作品を読む」(NHK アナウンサー・村上里和)
- 「わくわくこどもランド」(アフリカドラム他)
- 5 日 (日) ウィークエンド・カレッジ (ロシア語事始め、講師・工藤正敏)
- 映画鑑賞会「グッドバイ」(原作：太宰治)
- 8 日 (水) ウィークエンド・カレッジ (ロシア文学講読、講師・工藤精一郎)
- 9 日 (木) 「わくわく子どもランド」(手作り教室「紙芝居をつくろう」)
- 10 日 (金) 「わくわく子どもランド」(手作り教室「紙芝居をつくろう」)
- 10 日 (金) 財団運営検討委員会
- 11 日 (土) ウィークエンド・カレッジ (朗読で楽しむ北海道の文学、講師・館野直光)
- 17 日 (金) 財団臨時理事会
- 18 日 (土) ウィークエンド・カレッジ (ロシア語事始め、講師・工藤正敏)
- 19 日 (日) ウィークエンド・カレッジ (佐々木譲の小説論、講師・佐々木譲)
- 25 日 (土) ウィークエンド・カレッジ (ロシア文学講読、講師・工藤精一郎)
- 9 月 1 日 (土) ウィークエンド・カレッジ (朗読で楽しむ北海道の文学、講師・館野直光)
- ファミリー文学館「文字とあそぶ『ほっ』」展オープン (～9 月 13 日)
- ワークショップ「文字とあそぶ『ほっ』」(親と小学生 5 組)
- 副読本「北海道の文学」編集会議
- 2 日 (日) ウィークエンド・カレッジ (朗読で楽しむ北海道の文学、講師・館野直光)
- ワークショップ「文字とあそぶ『ほっ』」(親と小学生 5 組)
- ウィークエンド・カレッジ (ロシア文学講読、講師・工藤精一郎)

- 8日(土) 小・中学生短歌コンテスト表彰式
ウィークエンド・カレッジ (ロシア語事始め、講師・工藤正廣)
- 15日(土) ウィークエンド・カレッジ (朗読で楽しむ北海道の文学、講師・館野直光)
- 16日(日) ウィークエンド・カレッジ (ロシア文学講読、講師・工藤精一郎)
- 22日(土) 特別企画展「目で識る川柳 250年展」オープン(～11月7日)
同展オープニングセレモニー
文芸講演会「川柳の視野——250年間に川柳が獲得したもの」
(川柳家・尾藤一泉)
- 23日(日) ウィークエンド・カレッジ (佐々木譲の小説論、講師・佐々木譲)
- 24日(月) 「わくわく子どもランド」(パネルシアター他)
- 29日(土) 副読本「北海道の文学」編集会議
ウィークエンド・カレッジ (ロシア語事始め、講師・工藤正廣)
ウィークエンド・カレッジ (朗読で楽しむ北海道の文学、講師・館野直光)
- 10月2日(火) 北海道教育委員会利用者アンケート調査開始(～12月21日)
- 7日(日) 全国川柳大会(Hライフオート札幌)
パネルディスカッション(川柳展関連事業)
- 13日(土) 「わくわく子どもランド」(絵本の読み聞かせ他)
- 16日(火) 石川県議会総務企画委員会行政視察
- 21日(日) 「北海道ゆかりの文学を読む」(NHK文化センター朗読教室と共催)
- 26日(金) 財団企画検討委員会
- 27日(土) 秋の古書バザール
- 28日(日) オクトーバーギターコンサート(亀井貴幸ほか)
- 30日(火) 文芸講演会「北海道川柳の流れ」(講師・斎藤大雄)
- 11月2日(金) 北海道学校図書館司書担当者研究協議会
- 3日(土) 「わくわくこどもランド」(人形劇・影絵)
文学館出前講座「作家が問う—文学・自然・環境」
(ニセコ町有島記念館、講師・加藤幸子)
- 4日(日) ロビーコンサート(札幌交響楽団員大平まゆみほかによる「弦楽四重奏」)
- 10日(土) ウィークエンド・カレッジ (ロシア語事始め、講師・工藤正廣)
- ウィークエンド・カレッジ (朗読で楽しむ北海道の文学、講師・館野直光)
- 17日(土) 企画展「新発見!100年前の児童雑誌」オープン(～1月14日)
同展オープニングセレモニー
ウィークエンド・カレッジ (ロシア語事始め、講師・工藤正廣)
ウィークエンド・カレッジ (朗読で楽しむ北海道の文学、講師・館野直光)
- 23日(金) 国松竜次ギターリサイタル
- 24日(土) 千葉県柴山町社会教育委員17名視察来館
文芸セミナー「近代日本の児童雑誌——その歴史と子どもの生活」
(講師・上笠一郎)
- 25日(日) 映画鑑賞会「維新の篝火」(原作:池波正太郎)
- 27日(火) 文学館出前講座「宮澤賢治と妹トシを語る」
(大空町女満別図書館、講師・斉藤征義、松岡義和)
- 神奈川県議会議員4名視察来館
- 12月1日(土) ウィークエンド・カレッジ (ロシア語事始め、講師・吉岡正敏)
- ウィークエンド・カレッジ (朗読で楽しむ北海道の文学、講師・館野直光)
- 2日(日) 「わくわくこどもランド」(ツリーをつくろう)
- 9日(日) 「わくわくこどもランド」(カルタをつくろう)
- 15日(土) 副読本「北海道の文学」編集会議
ウィークエンド・カレッジ (ロシア語事始め、講師・吉岡正敏)
ウィークエンド・カレッジ (朗読で楽しむ北海道の文学、講師・館野直光)
- 21日(金) 財団企画検討委員会
- 22日(土) 「わくわくこどもランド」(クリスマススペシャル)
- 1月6日(日) ウィークエンド・カレッジ (ロシア文学講読、講師・工藤精一郎)
- 12日(土) ウィークエンド・カレッジ (ロシア語事始め、講師・工藤正廣)
- ウィークエンド・カレッジ (朗読で楽しむ北海道の文学、講師・館野直光)
- 19日(土) ウィークエンド・カレッジ (ロシア語事始め、講師・工藤正廣)
- ウィークエンド・カレッジ (朗読で楽しむ北海道の文学、講師・館野直光)
- 20日(日) ウィークエンド・カレッジ (ロシア文学講読、講師・工藤精一郎)
- 24日(木) 貸館「雪と風の器 2007」オープン(～2月3日)
- 2月1日(金) ウィークエンド・カレッジ (ロシア語事始め、講師・吉岡正敏)
- ウィークエンド・カレッジ (朗読で楽しむ北海道の文学、講師・館野直光)
- ウィークエンド・カレッジ (ロシア文学講読、講師・工藤精一郎)
- 3日(日) 「わくわくこどもランド」
- 9日(土) 企画展「探求者の魂 山田昭夫の書斎から」オープン(～3月23日)
同展オープニングセレモニー
ウィークエンド・カレッジ (ロシア語事始め、講師・吉岡正敏)
ウィークエンド・カレッジ (朗読で楽しむ北海道の文学、講師・館野直光)
- 17日(日) ウィークエンド・カレッジ (ロシア文学講読、講師・工藤精一郎)
- 23日(土) 文芸セミナー「夢を紡いだ文学資料」(講師・平原一良)
- 29日(金) 財団運営検討委員会
- 3月1日(土) 「わくわくこどもランド」(ひなまつりスペシャル)
- 2日(日) 映画鑑賞会「絶唱」(原作:大江賢次)
- 7日(金) 財団理事会・評議員会
- 8日(土) 文学館出前講座「高校演劇の照明・音響・舞台とその実際」
(登別明日中等教育学校、講師・森 一生)
- 9日(日) ウィークエンド・カレッジ (ロシア文学講読、講師・工藤精一郎)
- 22日(土) 副読本「北海道の文学」編集会議
- 28日(金) 財団収集資料選定評価専門委員会

III 財団法人北海道文学館役員等名簿

(平成20年3月31日現在)

顧問	池澤 夏樹	加藤 幸子	木原 直彦	坂野上 明	原田 康子	堀 寛	
	山口 昌男						<7名>
参与	上西 晴治	木村 敏男	木村真佐幸	工藤 欣彌	小杉 捷七	鈴木 光彦	
	高島 二郎	谷口亜岐夫	永井 浩	永田 富智	新妻 博	樋口 游魚	
	比良 信治	山名 康郎					<14名>

役職員

理事長 1	神谷 忠孝	評議員 1	東 延江	評議員 25	澤辺 成徳	評議員 49	中澤千磨夫
副理事長 2	朝倉 賢	// 2	阿知良光治	// 26	柴橋 伴夫	// 50	中島 洋
// 3	小檜山 博	// 3	新井 章夫	// 27	白野 覚	// 51	中館 寛隆
// 4	原子 修	// 4	飯塚 優子	// 28	菅原 政雄	// 52	中山 昭彦
// 5	清原登志夫	// 5	石塚 純一	// 29	杉野 一博	// 53	野坂 政司
専務理事 6	平原 一良	// 6	内田 弘	// 30	鈴木八駿郎	// 54	野坂 幸弘
常務理事 7	川崎 信雄	// 7	大川佐稚子	// 31	瀬戸 正昭	// 55	橋本 征子
理事 8	加藤 多一	// 8	小笠原治嘉	// 32	高橋 明雄	// 56	平澤 秀和
// 9	亀井 秀雄	// 9	押野 武志	// 33	高橋 秀明	// 57	松嶋 東洋
// 10	工藤 正廣	// 10	小野規矩夫	// 34	滝谷 泰星	// 58	光城 健悦
// 11	斎藤 大雄	// 11	笠井 嗣夫	// 35	武井 静夫	// 59	森 一生
// 12	斉藤 征義	// 12	菊地 慶一	// 36	田口 耕平	// 60	藪 禎子
// 13	柴村 紀代	// 13	菊地 寛	// 37	田中 綾	// 61	山下 和章
// 14	立花 峰夫	// 14	岸 美千代	// 38	田中 和夫	// 62	山本 丞
// 15	谷 暎子	// 15	日下 哉	// 39	田中 厚一	// 63	若宮 明彦
// 16	辻脇 系一	// 16	熊谷ユリヤ	// 40	谷口 孝男	// 64	鷲谷 峰雄
// 17	前川公美夫	// 17	倉島 齊	// 41	千葉 宣一	// 65	和田 由美
// 18	源 鬼彦	// 18	小林 真二	// 42	知里むつみ	// 66	綿引 幸造
// 19	村井 宏	// 19	斎藤 一郎	// 43	手島圭三郎		
// 20	村田 俊秋	// 20	桜井 健治	// 44	寺田 文恵		
// 21	八子 政信	// 21	佐々木 讓	// 45	出村 文理		
// 22	米坂ヒデノリ	// 22	佐藤庫之介	// 46	藤堂志津子		
監事 1	吉田 秋陽	// 23	佐藤 将寛	// 47	時田 則雄		
// 2	清水 憲之	// 24	佐野 良二	// 48	富田 正一		

運営検討委員会

<5名+副理事長1名>

副理事長 1	朝倉 賢
理事 2	加藤 多一
// 3	斉藤 征義
// 4	谷 暎子
// 5	前川 公美夫
評議員 6	平澤 秀和

収集資料選定評価専門委員会

(任期：H 18.7.1~H 20.6.30)

<5名>

参与 1	谷口 亜岐夫
参理 2	工藤 正廣
// 3	立花 峰夫
// 4	村田 俊秋
評議員 5	出村 文理

企画検討委員会

<14名+副理事長1名>

副理事長 1	原子 修
理事 2	工藤 正廣
// 3	柴村 紀代
// 4	立花 峰夫
// 5	源 鬼彦
評議員 6	石塚 純一
// 7	内田 弘
// 8	佐野 良二
// 9	谷口 孝男
// 10	知里むつみ
// 11	松嶋 東洋
// 12	森 一生
// 13	藪 禎子
// 14	若宮 明彦
// 15	和田 由美

平成19年度年報

HOKKAIDO MUSEUM OF LITERATURE

北海道立文学館

〈指定管理者〉財団法人 北海道文学館

〒064-0931 札幌市中央区中島公園1番4号
TEL(011)511-7655 FAX(011)511-3266